

2月5日 年間第5主日

塩と光

マタイによる福音書 5章 13～16節

¹³「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。¹⁴あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。¹⁵また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。¹⁶そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

他の朗読：イザヤ 58:7～10 詩編 112:4～9 Iコリント 2:1～5

Lectio …読む

ご自分に従う者たちにイエスが教えられたことの考察を続けましょう。マタイはこれらの全ての尊い知恵を1つにまとめ、美しくも挑戦的な山上の説教を描きました (マタイ5～7章)。様々な場において、個々の教えは1世紀のキリスト者共同体の中で自由に語られていました。

先週私たちは、八福の教えを検討しました。マタイはこれに続いて、弟子たちと世の中との関係を述べるのにイエスが用いた3つのとても魅力的なイメージを選んでいきます。

その考えが意味するものは、今日のわたしたちには多少変化しています。マタイが書いた当時、塩の主な役割は食物が悪くなるのを防ぐ防腐剤でした。これは今でも重要ですが、今日たいていの人々は料理の味をよくするために塩を使うことを考えるでしょう。

光のイメージは山にある町のイメージとして簡潔に表現されています。防衛上の理由から、町はしばしば山の頂上に建てられました。町は周りの地域に影響を持っており、またよく見えたことでしょう。

イエスは、光についての話を続けます。私たちの多くにとって、スイッチを押せば家の中で欲しいだけの明かりをつけることができます。暗い夜には散歩のために、ポケットに懐中電灯を忍ばせることも容易です。これらは最近発達したものです。イエスの時代には、少しの油と灯心ランプが家を照らし、家の外では星と月が輝き、ランプ以外には星と月だけが光だったのです。それで光はとても重要でした。イエスはご自分のメッセージを強調するためにユーモアを働かせます。ランプを升の下に置こうとする人などいません。それは意味のないことですし、光は完全に消えてしまうでしょう。

英語の翻訳では、説明するのに比喩を用いています。あなたは光や塩のようだと。しかし原文のギリシア語では、もっと強い表現で、あなたは全人類のための塩であり、光であると述べています。

イエスはキリスト者には個々に、また教会には集合的に、塩、光、そして山の上に建てられた町になる責任を課しています。私たちは道を示し、味を加え、自分たちの社会で1つの模範にならなくてはなりません。そしてその目的は、神が賛美されることです。別の言い方をすれば、主の祈りの中で祈るように、神の聖なる御名があがめられるということです。

Meditatio …黙想する

イエスが用いた、塩、光、山の上の町についての3つのイメージをよく考えてみましょう。この世で私たちの信仰を生き続けるために、それぞれから何を学ぶことができますか。

イザヤ 58章と詩編 112編からの朗読は、塩や光であることの実例を私たちに与えています。あなたがこれらのどれかを生活の中で実行できるかどうか、また、どうすれば実行できるのかをよく

考えてみましょう。

Oratio …祈る

イエスがご自分の弟子としてあなたに課そうとしている責任について、あなたは準備できていると思いますか。使徒パウロは神と私たちの前で彼自身の偽りのない恐れや不安を述べることを恥としました (I コリント 2 章 1 ~ 8 節)。私たちも恐れる必要はありません。あなたを強め、あなたの家庭の中で神のために塩であり光であらうとする大胆さを神に願いましょう。

Contemplatio …観想する

イエスが私たちにキリスト者の生活のために基準を定めるとき、私たちは自分自身の力でそれを満たそうとする間違いを犯しがちです。パウロは、自分自身の能力に頼るのではなく、聖霊の力に頼るべきであると気づかせてくれます。エフェソ 1 章 17 ~ 20 節のパウロの祈りをすべて読んで、励ましを受けましょう。17、19、20 節に以下のように書かれています。

「どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし…。また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるように。神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、…。」